

道徳科学習指導案

指導者

T 1

T 2

1 日 時 令和6年10月23日（水） 5校時

2 学 年 第1学年（8名）

3 主題名 「しんせつにすると」 [B 親切、思いやり]

4 ねらい

くまに親切にされたおおかみの変容を考えることを通して、意地悪をした時よりも、親切にしたときのほうがずっと気持ちがいいことに気づき、身近にいる人に親切にしようとする心情を育てる。

5 教材名 「はしのうえのおおかみ」
（「小学どうとく 生きる力1」日本文教出版）

6 主題設定の理由

○主題観

本主題は、第1学年及び第2学年の内容項目 [B 親切、思いやり]、「身近にいる人に温かい心で接し、親切にすること。」に基づくものである。これは、第3学年及び第4学年では、「相手のことを思いやり、進んで親切にすること。」、第5学年及び第6学年では、「誰に対しても思いやりの心を持ち、相手の立場に立って親切にすること。」に繋がっていく。

集団の生活において、自分のことばかりを考えたり、自分の思だけを主張したりしては望ましい人間関係を構築することはできない。互いが相手に対して思いやりの心をもって接するようになることが不可欠である。低学年においては、家族だけではなく家の周りの人や学校の人々、友だちなどとの関わりが次第に増えてくる時期にある。児童がこれからの生活の中で多くの人と関わり、よりよい人間関係を築くために、誰に対しても分け隔てなく温かい心で接し、親切にすることが必要である。そこで、身近な人に広く目を向け、温かい心で接し、親切にすることの大切さについて考えを深められるようにと考え、本主題を設定した。

○児童観

○指導観

本教材は、くまの優しい行動が意地悪なおおかみの心に染み渡り、おおかみの心が優しく親切な心になっていくという、おおかみの心の変容がよくわかる教材である。主人公のおおかみは、橋の上で出会ったうさぎを相手に意地悪をして面白がり、他の小さな動物たちも次々に追い返していく。ところが、自分より大きなくまに出会い、思いがけず優しく橋を渡してもらったことで、意地悪な自分の行為を振り返り、自分もうさぎたちに優しく接するようになる。くまに親切にされたおおかみの変容を通して、親切にすることで、

意地悪をした時よりも、親切にしたときのほうがずっといい気持ちになることに気づくことのできる教材である。

指導に当たっては、児童が主体的に考え、友達と意見交流をすることを通して、道徳的価値についての考えを深められるようにしていく。そのために次の4点に留意する。

- ① 導入では、事前アンケートで聞いた「友達に優しくするとどんな気持ちになるのか」の回答を提示した後、「親切にするとどんないいことがあるでしょう。」と問いかけ、本時が親切についての学習であるという課題意識をもたせる。
- ② 展開前段では、役割演技を取り入れることで、道徳的場面を自分ごととして考えさせるようにする。自分よりも小さなうさぎに「えへん、へん」と意地悪を楽しむおおかみの気持ちを、後段では、自分よりも大きなくまに親切にされたことで、くまの後ろ姿をじっと見送るおおかみの気持ちについて考える。
- ③ 中心発問では、1回目と2回目の「えへん、へん。」を対比させ、表情についての理由を問い、温かい心で親切にする心地よさを感得させ、快感情のキーワードをまとめていくことで、意地悪をした時よりも優しくしたときのほうが、とても気持ちがいいことに気づくようにする。
- ④ 展開後段では、親切にしたりされたりしたことはありますかと問い、その時の気持ちを考えさせることで、身近な人に親切にしようとする気持ちを高め、親切のよさについて気づくようにする。そして、振り返りで親切についての意味づけをする。

7 準備物 挿絵、ホワイトボード、短冊、表情カード、道徳ノート

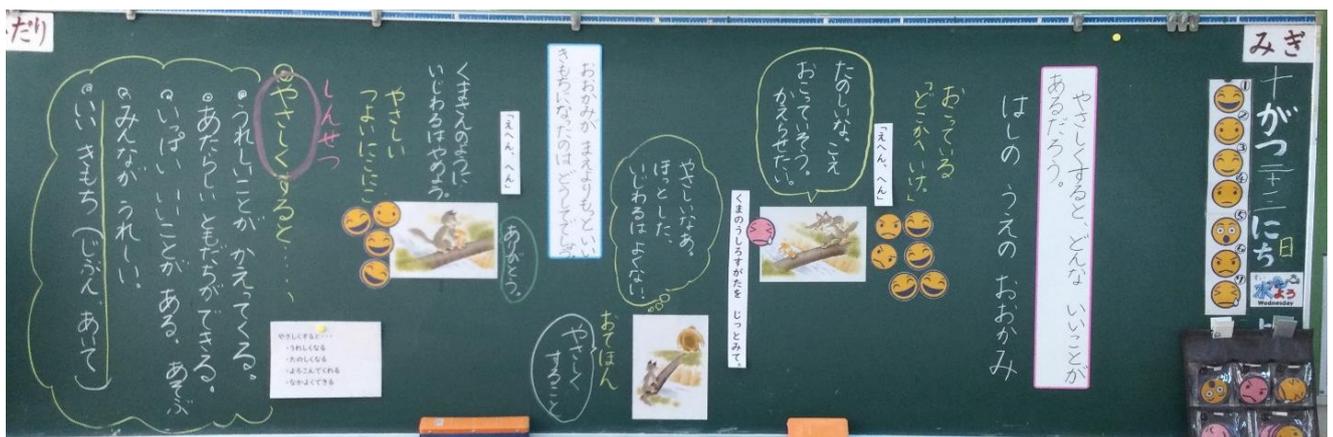
8 学習指導過程

	学習活動	○主な発問 ・児童の心の動き	指導形態		○留意点●評価
			T 1	T 2	
導入 (3分)	1 事前アンケート結果を示して課題を設定する。	○友達に優しくすると、どんな気持ちになるでしょう。 ・嬉しい気持ち。 ・困っている人を助けると喜ぶ。 ・みんなが仲良くなり、楽しくなる。	発問	板書	○事前アンケートから、優しくされた経験を振り返らせ、その時の気持ちや嬉しさを提示することで、本時の課題につなげる。
		親切にすると どんないいことがあるでしょう。			

展開前段（12分）	2 「はしのうえのおおかみ」を読んで考え、話し合う。	<p>○すごすごと戻っていくうさぎに「えへん、へん。」と言いながら、おおかみはどんなことを考えていたでしょう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・おれは強いんだ、もどれ。 ・いい気持ちだ、もっとやりたいな。 ・こわがっているぞ、おもしろい。 ・いじわるは、楽しいな。 	発問	役割演技	○役割演技を通して、自分より小さい者に対して面白がって意地悪をするおおかみの心情を捉えることができるようにする。
		<p>○くまの後ろ姿をじっと見ているおおかみは、どんなことを考えていたでしょう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・なんで、びっくり。 ・優しいなあ。 ・意地悪は楽しいはずなのに。 ・嬉しかったな。 ・不思議な気持ちだ。 ・かっこいいなあ。 ・いい気持ちだったな。 ・今まで意地悪だったな。 	発問 机間指導	板書	○役割演技において、おおかみがくまの親切な心に触れた時の心情の変化を実感として捉え共感させる。
		<p>【中心発問】</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <p>○おおかみが、前よりずっといい気持ちになったのは、どうしてでしょう。</p> </div> <ul style="list-style-type: none"> ・うさぎさんが喜んでくれた。 ・よいことをすると気持ちがいい。 ・優しくすると自分も嬉しくなる。 ・もう、意地悪はしない。 ・優しくするととてもいい気分になると分った。 	発問 机間指導	板書 机間指導	○ペアで意見交換し、多様な考えに触れることで、深められるようにする。 ○「えへん、へん。」を初めと対比させ、おおかみの心の変容を捉えさせる。

展開後段 (25分)		<p>【考えを深める発問】</p> <p>○意地悪をしたときのこにこと、優しくしたときのこにこはどちらがうのでしょうか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・1回目は、相手がいやな気持ち。 ・2回目は、どちらも気持ちがいい。 	発問 機関指導	板書	○温かい心で親切にする心地よさを感じさせるために、意地悪をしたときの表情と親切をした時の気持ちを表情カードで比較し、その理由を板書にまとめる。
	3 自分の生活を振り返る。	<p>○親切にすると、どんないいことがあるのでしょうか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・親切にすると、自分も相手も嬉しい。 ・にこにこ笑顔になる。 ・心がほかほかする。 	発問	板書	<p>●相手のことを考え、優しく接することのよさに気付いている。 (道徳ノート・発言)</p> <p>【キーワード】</p> <p>・親切にすると、心がほかほかする。</p> <p>・自分も相手も嬉しくいい気持ちになる。</p>
終末 (5分)	4 学習の振り返りをする。	<p>○親切にしたり、されたりしたことはありますか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・親切にした人もされた人も気持ちがよくなる。 ・自分が親切にされたら、ほかの人にも親切にしたくなる。 	発問 機関指導	機関指導	○誰かに親切にして、相手も自分も嬉しくなったときのことを振り返らせる。

9 板書



10 成果と課題

- 教材文を動画で流したため話の内容を理解することがとてもスムーズであった。児童は興味を持ちながら、話に入っていくことができた。
- 表情カードは、児童が選択した理由を言うことで考えていることを発表できるのでとても効果的であった。対話や全体交流の場面でとても役に立っている。
- くまさんの行動を見て、その行動を「お手本」にしたという意見は、とても素直な反応でよかった。
- 「しんせつ」という言葉を知らない児童が多かったので、本時の学習で「しんせつ」という言葉について知ることができた。次からの授業では「しんせつ」という言葉で授業ができる。
- 動作化をすることは、登場人物の様子や気持ちを考えるためにとても効果的であった。
- 意地悪な場面にあまりであったことのない学級実態の中で、意地悪なおおかみの気持ちが考えにくい面があったので、教師が大げさに演じるなどしてもよかった。
- 動作化については、行う回数、人数、役割等、細かく計画する必要があるがあった。

11 今後に向けて

- ・ 低学年にとって、動作化は学習の意欲付けにつながるので、児童の思考の助けとなるような動作化を今後とも工夫して取り入れていきたい。また、表情カードも、発言しにくい児童にとっては理由付けとして話しやすいので有効活用していく。